

2025 年度  
自己評価報告書  
(専門学校等評価基準 Ver.5.0 準拠版)

2026 年 4 月 28 日

早稲田大学芸術学校

# 目次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	2
-----------------------	---

## **基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント**

1-1 教育理念、目的および目標の設定等 .....	3
1-2 職業教育のマネジメント体制の整備 .....	4

## **基準2 教育課程、教育の実施、学修成果**

2-1 教育課程の編成と授業科目 .....	5
2-2 教育課程の実施 .....	6
2-3 単位・卒業認定 .....	7
2-4 学修成果目標の達成状況.....	8

## **基準3 学生の受入れ、学生支援**

3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理.....	10
3-2 多様な学生に対する修学支援 .....	11
3-3 学生生活に関する支援 .....	12
3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援 .....	14

## **基準4 教員・教育実施組織**

4-1 教員の配置、募集、採用.....	15
4-2 教員の組織編制等.....	16
4-1 教員の資質の向上.....	17

## **基準5 教育環境**

2-1 教育環境の整備点検、改善等 .....	18
2-2 安全対策、防災組織 .....	19

## **基準6 教育活動の基盤と情報の公表**

6-1 中期事業計画と財務基盤.....	20
6-2 学校運営 .....	21
6-3 学校評価の実施と改善活動.....	22
6-4 社会からの理解と情報の公表 .....	23

## 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	2026年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
<p>1 共につくる collaboration</p> <p>学生と教員が建築都市のデザインを通して一体となり、次世代に向けての新しいメッセージを共に創り出す。</p> <p>2 個性をのばす one on one teaching</p> <p>各人に秘められた個性を発見し、その一人一人の個性を最大限に伸ばすために、スタジオ型による個別指導を行う。</p> <p>3 総合芸術としての建築をめざして toward the art and architecture</p> <p>文系・理系の領域を超えた文理融合型の教育方針に基づき、建築を中心として様々な芸術分野を統合した新しい建築芸術を目指した高度建築家の育成を実現する。</p>	<p>①2018年度より運用を開始した現カリキュラムの充実・安定的運用を実現する。</p> <p>②広報・学生募集活動を積極的に推進し、その評価と改善を継続することで学校の社会的な認知度を上げ、受験生や入学者の増加につなげる。</p> <p>③学内外における連携体制構築を行い、早稲田大学のみならず関連団体等の人材を存分に活かした教育活動を展開する。</p> <p>④早稲田大学創造理工学部建築学科、創造理工学研究科建築学専攻との連携を推進し、大学へも寄与しつつ、芸術学校が持つ魅力や特色をさらに引き上げる。</p>	<p>①現カリキュラムに移行してから7年度が経過し、安定的に運用しつつ、時代や社会のニーズに沿って細かな調整を実施している。</p> <p>②予算規模はそのままに、既存施策の見直しと新規施策の導入により効率の向上を図った結果として、資料請求数が増加し、2026年度入試の志願者数も前年度比約13%の増加となった。</p> <p>③および④</p> <p>学内では、創造理工学部/研究科の建築学科/建築学専攻との連携を密にするため「連携協議会」を新設する等し、互いの交流を深め、魅力と特色の向上を目指し続けている。学外についてはこれまでの関係団体との関係を維持しつつ、新たな団体との連携を模索し続けている。</p>	<p>教育理念、目標ともに一朝一夕に実現できるものではなく、また、時代の流れによっては具体的な施策について変更を加える等、不断の見直しが必要である。そのため、これまで同様に平素より情報感度を高め、教職員間で共有し、協議を続けることが必要である。</p>

<b>最終更新日付</b>	2026年4月28日	<b>記載責任者</b>	宮本 佳明
---------------	------------	--------------	-------

# 基準 1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

1-1 (1/1)

## 1-1 教育理念、目的および目標の設置等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科（コースを設置している場合はコースごと）ごとに育成する人材像を明確にしていること。	<p>○当該専門学校の教育理念を踏まえた目的、目標が適切な決定過程により設定されているか</p> <p>○設置している課程（学科、コースを設置している場合はコースごと）ごとに目的、目標、育成人材像が具体的に示されているか</p> <p>○当該専門学校の教育理念、目的、目標と学科等ごとの目的等との関連性が明確になっているか</p> <p>○また、入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定方針との関連性が明確になっているか</p> <p>○教職員、学生、社会に対して教育理念等が十分に周知・公表されているか</p>	<p>本校の教育理念は、「共につくる」教育を通じて学生個々人の個性をのばし、芸術分野を統合した新しい建築芸術・総合芸術としての建築を目指した高度建築家の育成を実現することにある。</p> <p>そのため、建築科・建築都市設計科それぞれにおいて身に付けるべき資質・能力を定義し、学修すべき内容をカリキュラムにて網羅している。なお、これらの内容に関しては教職員、学生はもとより、社会全体に開かれたものとして、本校 Web サイトをもって広く公表している。</p>	<p>人材育成の核となるカリキュラムについて、2018 年度の刷新以降も一層の充実、改善のために毎年見直しを続けている。</p> <p>特に文理融合、総合性を強化すべく設置した科目「アセンブルデザイン特論」において、建築デザインを取り巻く領域（都市マネジメントからエディトリアルまで）で活躍する著名な実務家や研究者を講師として招き、学生の多様な興味に応えた授業を着実に実践している。</p>	<p>教員間はもとより、学内外の研究者や実務家の協力を得ながら、平素よりカリキュラムやコンテンツの見直しを継続する必要がある。</p>

参照資料	中項目の評定
教育理念 - 早稲田大学 芸術学校、カリキュラム - 早稲田大学 芸術学校、卒業要件 - 早稲田大学 芸術学校、学校案内 2026-27(P2-3)	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 1-2 職業教育のマネジメント体制の整備

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-2-1 職業教育を推進（教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等）するために必要なマネジメント体制（以下「職業教育のマネジメント体制」という。）を整備し、有効に機能していること。	○当該専門学校の目的を実現するために、学校内に具体的に職業教育を推進するための組織体制を整備しているか ○職業教育のマネジメント体制は有効に機能しているか	<p>本校は第一線で活躍する建築家や実務家など各専門領域で活躍する多種多様な講師陣を招聘しており、例年この人事の方向性を変えていない。これについては、建築業界各分野における最新の情報を授業に反映する目的がある。授業にもたらされた最新の情報は、各会議体等で校長や教務主任に集約され、翌年度のカリキュラム編成に反映させている。</p> <p>本校におけるマネジメント体制については、校長を筆頭に本校専任教員からなる「主任会」において練られた内容を主に各学術院から選出された委員で構成する学校法人としての意思決定機関「芸術学校運営委員会」に諮ることで、有効に機能させている。</p> <p>また、年に一度は必ず自己点検および学校関係者評価を実施している。</p>	<p>校長を筆頭に、本校の常勤教員は全員、建築士事務所に所属する「建築家」である。</p> <p>また、夜間開講のため昼間には業務のため登壇できない、現役で活躍する著名な実務家を非常勤講師や招聘講師として多数アサインしているため、それらの方々より授業そのものや学生の反応等に基づく意見、現在業界で活躍されている新進気鋭の実務家の情報等を吸収することができるのは本校の大きなメリットである。</p>	<p>平素からの授業でのやり取りのほか、教員同士の情報交換のための懇談会を年に一度実施している。また、年度末には次年度に向けたカリキュラムに関する意見交換の場を常勤・非常勤の枠を超えて実施しており、これらを継続、発展させていくことが必要である。</p>

参照資料	中項目の評定
早稲田大学芸術学校学則、早稲田大学芸術学校規則、早稲田大学芸術学校主任会運営内規、早稲田大学芸術学校学校評価委員会内規、教員紹介 - 早稲田大学 芸術学校、学校評価 - 早稲田大学 芸術学校	3

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 基準 2 教育課程、教育の実施、学修成果

2-1 (1/1)

### 2-1 教育課程の編成と授業科目

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	<p>○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか</p> <p>○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか</p> <p>○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか</p>	<p>育成人材像を具現化するため、修学の結果として身に付けるべき能力等を卒業認定方針として規定している。</p> <p>教育課程については、実践的導入基礎教育を中心とした1年次の&lt;ベーシッククラス&gt;、応用・専門教育を中心とした2年次の&lt;プロフェッショナルクラス&gt;、建築デザインについてより高度なデザインの専門性をプラスした3年次の&lt;ディプロマクラス&gt;で構成し、初心者から高度な技術を習得するまでの体系的なカリキュラムを編成している。</p> <p>その結果、系統のかつ段階的に学んでいけるよう体系化された科目編成、実施方針となっている。</p> <p>これらの内容は全て本校 Web サイトにて公開している。</p>	<p>教育の根幹を成しているコンセプトとして“ASSEMBLE”(アSEMBル=多様な領域を集合し組み立てること)を掲げ、建築デザインを中心に据え、横軸を「環境パターン(景観、形態、空間)」、横軸を「デザイン手法(再生、創造、再編)」として3×3の=9つのカテゴリーの幅広いテーマを設定しており、これらのテーマを基にデザインを取り巻く今日的な社会問題の解決へと対応した実務的教育を実現している。</p>	<p>今後も新たな環境指標や先端技術、都市防災などの新たな視点を取り込みながら、カリキュラムおよび授業科目の新たな展開を模索し続ける必要がある。</p>

参照資料	中項目の評定
卒業要件 - 早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">カリキュラム - 早稲田大学 芸術学校</a> 、 <a href="#">学校案内 2026-27(P8-23)</a>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 2-2 教育課程の実施

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	<p>○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか</p> <p>○授業科目毎にシラバスを作成し、学生に周知しているか</p> <p>○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか</p> <p>○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか</p> <p>○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対し明示し、適切に運用しているか</p>	<p>1年次は“ドローイング”を、2年次は“エスキス”をコンセプトテーマとし、また3年次は“ディプロマ”を目標として、それぞれの段階に適した授業内容、形態、方法および教材を用いている。</p> <p>全ての科目についてシラバスを作成し、科目内容、成績評価基準および方法を事前に公開し、公正かつ厳格に評価を行っている。</p> <p>また、学生への履修、学修に関する指導については、教員への面談の申し込みを常時受け付けているほか、各授業の前後やLMS上で直接メッセージを受け付ける等、広く間口を開いている。なお、成績評価に関する問い合わせについては、原則として科目担当教員に問い合わせることとしており、このことを各学期の成績発表前に全学生へ周知している。</p>	<p>社会人学生が多い本校では、一般的なやむを得ない事情による欠席（忌引き、特定感染症への罹患など）に加え、仕事上の事情を勘案すべく、授業欠席届による申し出を受け付けている。成績評価においてどの程度、配慮するかは授業担当教員によるものの、業務事情の申し入れを受け付ける間口があることは、多忙を極める社会人学生に一定の安心感を与えているといえる。</p>	<p>欠席した授業で配られた資料の後日受け取り等は適宜行っているが、オンデマンドによる授業の補完など、更なる授業環境の改善等を模索し続ける。</p>

参照資料	中項目の評定
カリキュラム - 早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">授業・成績 - 早稲田大学 芸術学校</a> 、 <a href="#">シラバス</a>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 2-3 単位・卒業認定

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	卒業認定方針を学科ごとに定めており、公開している。また、その基準を満たすことができるよう、卒業要件単位数を定めており、卒業認定を行っている。 また、本校では建築科、建築都市設計科ともに卒業時には二級建築士試験、一級建築士試験の受験資格を得られるよう授業科目が構成されており、単位数に関してもその要件を満たしている。	特筆すべき長所、課題はない。	

参照資料	中項目の評定
卒業要件 - 早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">授業・成績</a> - 早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">資格・進路</a> - 早稲田大学 芸術学校	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 2-4 学修成果目標の達成状況

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。）の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。）の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	<p>修学の結果として身に付けるべき能力等を卒業認定方針として規定している。</p> <p>必要な知識や技術、技能等の修得に関しては、演習等における日々の指導や講評会等において、常勤教員を中心に日頃から観察、評価している。</p>	<p>本校は資格取得を一義とする学校ではないが、建築士試験の受験資格を得るための一通りの授業内容は整備されている。学生は卒業後も資格試験に向けた勉強を継続し、数年後に受験しているケースが見られる。</p>	<p>卒業後の資格取得状況を把握するための仕組みを検討する。</p>
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	<p>○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか</p> <p>○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか</p> <p>○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか</p> <p>○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか</p>	<p>本校学生の多くは既に職をもつ社会人であるため、就職率等を重視する一般の専門学校とは異なる。そのため進路に関する具体的な目標は定めていないが、学生個別の就職、転職、進学相談について、授業の前後や別途機会を設けて教員が面談をする等し、きめ細やかに対応している。特に大学院創造理工学研究科建築学専攻の特別選考入試に向けた事前面談を建築都市設計科の3年生向けに4月の段階で公開、実施することで十分な準備期間を取ることができるよう配慮している。</p> <p>また、本校宛てに届いた求人票は全て教務主任が目を通したうえ</p>	<p>本校の特色として、稲門建築会との連携を強化し、在籍時、卒業後も有効な情報管理、情報提供を行える体制を目指している。また、稲門建築会主催の建築学科卒業生による企業説明会には本校学生も参加可能であり、進路の検討に役立てられている。</p> <p>また、本校の卒業生で構成される同窓会「稲芽会」による協力のもと建築家や建築周辺業界で活躍するOB・OGの体験談等を直接聞く機会を学生に提供している。</p> <p>さらに、本校卒業生（見込者を含む）向けに開かれている早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学専攻への特別選考入試には毎年</p>	<p>進路報告で得られた卒業時の進路状況、卒業以降のキャリア形成の意向について、活用する仕組みを検討する。</p>

		<p>で、学内イントラネットや事務所内のファイルにて学生に公開している。</p> <p>なお、今後の進路指導の検討に有効活用するため、一昨年度より卒業時の進路報告をよりきめ細やかに 行っており、卒業時の進路状況や先々のキャリア形成の意向について、把握しつつある。</p>	<p>複数名がエントリーし、常に本入試による進学者が大学院進学を実現し、充実したキャリア形成を進めている。</p>	
--	--	---	---	--

参照資料	中項目の評定
<a href="#">資格・進路 - 早稲田大学 芸術学校</a> 、 <a href="#">企業の方へ - 早稲田大学 芸術学校</a> 、 <a href="#">校友会 - 早稲田大学 芸術学校</a> 、	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 基準 3 学生の受入れ、学生支援

3-1 (1/1)

### 3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	○卒業認定方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受入れ方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準等を明確に示しているか ○また、選抜方法及び手続をあらかじめ公表した上で、所定の選抜基準及び体制のもとで適切かつ公正に入学者を選抜しているか	求める人材像は明文化していないものの、学校説明会等での説明において、本校は建築を一から学ぶことができる学校として建築意匠への強い関心と学ぶ熱意があることを全志願者に求めており、入学選考における小論文および面接にて確認している。 なお、選抜方法は全て事前に公表し、独自の選抜基準のもと、常勤教員が選抜に臨んでいる。選抜結果は本校の意思決定機関である運営委員会にて付議、決定している。	他校の現状も踏まえつつ、求める人材像について分かりやすく定義し、公表することを学校として検討する必要がある。	他校の現状調査および定義と公表の必要性についての基礎資料の収集および協議。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	○入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しているか	2025年度入学選考の結果として入学した2025年4月入学者と同時点2年生以上の在籍学生数の合計は収容定員内に収まっている。	建築都市設計科の定員充足率がやや低い。	建築科は充足率を満たしており、編入制度による3建築都市設計科への編入学をさらに推進する。また、他校の3年制と比較した場合の建築都市設計科の優位点を明確にし、打ち出すことを検討する。

参照資料	中項目の評定
卒業要件 - 早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">入学試験要項</a> 、 <a href="#">早稲田大学芸術学校規則</a> 、 <a href="#">2025年度4月入学試験結果</a> 、 <a href="#">2025年度始学生数</a>	2

<b>最終更新日付</b>	2026年4月28日	<b>記載責任者</b>	宮本 佳明
---------------	------------	--------------	-------

3-2 (1/1)

### 3-2 多様な学生に対する修学支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	○障がいのある学生、海外からの留学生等多様な学生に対して必要な配慮、支援を行っているか	<p>障がいのある学生の修学に関する支援に関して、早稲田大学には一つの部門としてアクセシビリティ支援センターが設けられており、障がい学生支援に関する基本方針を策定し、差別的取り扱いの禁止や合理的配慮の提供を行っている。本校学生もその支援の対象となっている。</p> <p>留学生は受入れ実績はあるものの非常に少数であるため、常勤教員が個別に目をかける等し、指導・支援を行っている。</p> <p>社会人経験者の学生については、もとより夜間に授業を実施しているほか、欠席時の配付資料の後日受け取り、出席回数に重きを置きすぎない総合的な成績評価、個別事情(長期出張、勤務の都合による欠席)に関する相談への対応、評価時に個別事情を勘案するなどの配慮を行っている。</p>	<p>学校法人早稲田大学は、ダイバーシティ推進宣言を掲げ、障がい学生のみならず、全ての構成員一人ひとりの多様性と平等を尊重するため、基本方針のもと、ダイバーシティの尊重、推進に努めている。支援の観点では学生部にスチューデント・ダイバーシティ・センターを設け、その下に左記のアクセシビリティ支援センターのほか、ジェンダー・セクシャリティ・センター、学生相談センター、異文化交流センターを実行組織として構成し、日常的に支援活動を行っている。</p>	<p>特筆すべき長所の伸長、課題の解決策はない</p>

参照資料	中項目の評定
早稲田大学 <a href="#">アクセシビリティ支援センター</a> 、 <a href="#">支援方針</a> - 早稲田大学 <a href="#">アクセシビリティ支援センター</a> 、 <a href="#">早稲田大学 ダイバーシティ推進室</a> 、 <a href="#">宣言文と計画</a> - 早稲田大学 <a href="#">ダイバーシティ推進室</a>	3

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 3-3 学生生活に関する支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	○学生生活等に関する相談体制を整備し、相談対応について、十分、学生に対して周知し、機能、活用されているか	3-2に記載した学生相談センターは本校を含む早稲田大学内全ての学生が利用可能であり、臨床心理士が対面および電話での相談に応じている。学生相談支援体制については学校要項や入学時の配付資料にて学生へ周知しているほか、Webページでも広く情報を公開している。	特筆すべき長所、課題はない	
3-3-2 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	○留年者、退学希望者に対し、学校として能動的に対応するための仕組みを取っているか	<p>休学および退学を届け出る学生には原則として面談の機会を設け、事情を聴取し、現状についての相談および今後についての助言・指導を行っている。</p> <p>成績不振者に関しては、一定の状況（例：標準修業年限内の卒業が困難）の学生をピックアップし、現状について確認するとともに教員との相談を勧め、指導にあたっている。</p>	<p>社会人学生が多いため、急な仕事の事情（異動や海外赴任など）により就学が難しくなるケースが少なくない。</p> <p>また、仕事や昼間学部での学業と本校での就学を両立することは体力面でも精神面でも容易ではないため、休学や退学を選択する学生も少なくない。</p>	早い段階で不調を認識し、支援の手を差し伸べることのできる仕組みを引き続き検討する。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-3 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	○定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか	学校法人早稲田大学では保健センターを部門として設けており、定期健康診断の実施はもとより、心身不調時に受診できる診療室を備えているほか。健康教育に係る情報提供、学内での講演などの啓発活動を行っている。	特筆すべき長所、課題はない	
3-3-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	○学生が就学を継続するための経済的側面に対する支援体制を整備し、情報の提供及び相談について適切に周知、運用しているか	2年生以上を対象とする2つの給付奨学金（早稲田大学芸術学校奨学金、早稲田大学校友会一般給付奨学金）を設けている。また、貸与奨学金である日本学生支援機構奨学金は1年生から応募が可能である。これらの奨学金に関する情報は案内冊子、ホームページ等で周知している。これらを活用し、経済的に困窮している学生の支援にあたっているほか、国の修学支援新制度についても、本校はその対象校となっており、毎年数名の学生が支援を受けることができている。	特筆すべき長所、課題はない	
3-3-5 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	○具体的な支援体制及び内容を整備し、周知、運用しているか	就職、転職、進学支援について、授業の前後や別途機会を設けて教員が個別に面談等を実施し、対応している。特に大学院創造理工学研究科建築学専攻の特別選考入試に向けた事前面談を建築都市設計科の3年生向けに4月の段階で公開、実施し、十分な準備期間を設けている。 求人票は全て教務主任が目を通し、学内イントラネットや事務所内のファイルにて学生に公開しているほか、稲門建築会主催の建築学科卒業生による企業説明会には本校学生も参加可能となっている。 また、建築家や建築周辺業界で活躍するOB・OGの体験談等を直接聞く機会を学生に提供している。	少数ではあるが高卒生のキャリア支援について、検討する必要がある。	他校の現状調査および高卒生である本校学生に必要な支援について基礎資料の収集と協議。

参照資料	中項目の評定
早稲田大学 学生相談センター、早稲田大学 保健センター、資格・進路 - 早稲田大学 芸術学校	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

### 3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	○自主学習等に対する相談対応と学習支援	<p>自主学習を望む学生に対し、所管する教室を貸し出しているほか、製図室等は授業実施時限以外も開放しており、利用することができる。不得意な科目に関しては、個別にフォローするなど、手を差し伸べている。</p> <p>2年生以上の専用スタジオでは課題はもとより、自主的な学習活動（コンペへの参加作品の制作を含む）も行うことができる。授業時間外に常勤教員が立ち寄り、アドバイスをすることも少なくない。</p> <p>一定の成績不振者、留年生、休学学生には面談の機会を積極的に設け、状況を把握し、個別の事情に沿った助言、指導を行っている。</p> <p>退学者についても、退学理由を面談等にて把握し、退学理由となった事柄が解消した暁には再入学できることを丁寧に説明している。</p>	大規模な専修学校に比してコンパクトで少数精鋭の指導体制であるため、学生の顔が見えやすく、個別に手を差し伸べやすい。	特筆すべき長所の伸長・課題の解決策はない。

参照資料	中項目の評定
施設紹介 - 早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">休学・退学 - 早稲田大学 芸術学校</a>	3

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 基準 4 教員・教育実施組織

4-1 (1/1)

### 4-1 教員の配置、募集、採用

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に配置していること。	○法令上の基準を遵守し、学校の目的を実現し、目標の達成するための教育を十分に実施できるだけの教員を配置しているか	<p>学校法人早稲田大学として常勤教員の採用基準を設けている。採用プロセスについても法人としての規程があり、本校のみならず他のセクションからの参加者を含む人事委員会が構成され、公平・公正に採用活動が行われている。</p> <p>兼任教員および非常勤講師に関しては、高度な実務家および研究者であることを前提としているが、本校の常勤教員は自身も実務家であるため業界の情報に精通しており、独自のコネクションや既存の非常勤講師から提供された情報を活用するなどし、総勢 50 名弱の有為な人材をアサインすることができている。</p> <p>なお、本校の課程区分、分野、総定員の場合、専修学校設置基準における必置基幹教員数は 3 名であるが、本校には 4 名の常勤教員が所属しているためこれを満たしている。</p>	特筆すべき長所、課題はない	

参照資料	中項目の評定
芸術学校人事委員会運営内規、 <a href="#">教員紹介 - 早稲田大学 芸術学校</a> 、 <a href="#">学校案内 2026-27(P 30-40)</a>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 4-2 教員の組織編制等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	○当該専門学校の教育活動を進めるための基本的な組織体制を整備しているか ○組織の責任体制、役割分担が規程等において明確で、連携体制が機能しているか	校長を筆頭に本校専任教員からなる「主任会」において練られた内容を主に各学院から選出された委員等で構成する学校法人としての意思決定機関「芸術学校運営委員会」に諮ることとしており、適切な責任体制となっている。 なお、常勤教員の役割分担に関しては毎年度末に翌年度の役割について会議にて決定している。 また、学年別に常勤教員を担任として配置し、それぞれの学年における指導の核となっている。校長、教務主任は全体を統括している。	特筆すべき長所、課題はない	

参照資料	中項目の評定
早稲田大学芸術学校規則、早稲田大学芸術学校主任会運営内規、 <u>2025年度運営体制・教員役割分担</u> 、 <u>2025年度学年担任およびオフィスアワー</u>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 4-3 教員の資質の向上

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 ①学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	<p>○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか</p> <p>○教育の質の向上に向け組織的なファカルティ・ディプロットメント活動に取り組んでいるか</p> <p>○上記の取組を行う上で、専門学校として、教育及び専門領域の実務に関する知見の充実、教育上の指導能力及び教員に求められる職能に関する理解を図っているか</p>	<p>法人全体としてFDを「教育の質を保証し、さらに向上させるための組織的取り組み」と位置づけ、大学総合研究センターを設け、その教育方法研究開発部門において全学へのFDプログラムの提供やアクティブな教育手法の整理、紹介を行っている。具体的には新任教員セミナーや海外協定協連携FDプログラムを実施しているほか、ティーチングアワード等の顕彰活動とその受賞者の担当する授業の見学機会の提供など、多岐にわたっている。</p>	<p>特筆すべき長所、課題はない。</p>	

## 参照資料

## 中項目の評定

[早稲田大学 大学総合研究センター](#)、[FDプログラム](#) - [早稲田大学 大学総合研究センター](#)

2

最終更新日付

2026年4月28日

記載責任者

宮本 佳明

## 基準 5 教育環境

5-1 (1/1)

### 5-1 教育環境の整備点検、改善等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	○当該専門学校における教育課程を実施するために必要、かつ十分な施設と、学生数、教育内容、教育方法に対応するための設備を整備し、十分活用しているか ○施設、設備について適宜点検し、計画的に改修、補修等を適切に行っているか	早稲田大学西早稲田キャンパスの教室を使用しており、必要な設備は完備されている。製図室には学生一人につき一台の製図台が使用できるほか、カメラとモニターが用意されており、教員や授業 TA の製図の様子を学生に見せることができる。いずれの教室も学部・大学院生の収容を前提としており十分な質と量を有している。点検、補修、更新も法人全体の計画に基づき実施されている。 なお、2年生以上の学生に専用スタジオを用意し、課題制作や自習に適した環境を整備している。	専用スタジオと机を用意していることは、他の専修学校に比して優位な点である。	授業や課題の内容に沿った機器の導入、利便性の向上について引き続き検討し続ける。
5-1-2 学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。	○学生の学習支援のための施設(自習室)を設け、運用ルールを定める等、適切に運用しているか ○食事、休憩のためのスペースを確保し、適切に運用しているか	早稲田大学の学部生、大学院生と同様に学内の全ての自習施設や食堂、ラウンジ等を利用可能であり、大学が定めた運用ルールのもと適切に利用されている。また、前述のとおり、2年生以上の学生に専用スタジオを用意し、運用ルールのもと適切に運用している。	大学の施設が利用可能であることは優位な点である。	特筆すべき長所の伸長・課題の解決策はない
5-1-3 図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。	○図書室が設置される、あるいは参考書貸し出しの仕組みがあり、利用ルールのもと適切に運用しているか	早稲田大学の学部生、大学院生と同様に学内のほぼ全ての図書館を利用可能である。その蔵書数は国内大学随一であり、必要な専門書は網羅されている。専門部門が定めた利用ルールのもと適切に運用されている。	大学の図書館を利用できることは優位な点である。	特筆すべき長所の伸長・課題の解決策はない

#### 参照資料

#### 中項目の評定

教室機器環境 - [Waseda IT Service Portal](#)、[施設紹介 - 早稲田大学 芸術学校](#)、[施設 - 早稲田大学 理工学術院](#)、[早稲田大学図書館](#)

3

最終更新日付

2026年4月28日

記載責任者

宮本 佳明

## 5-2 安全対策、防災組織

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	○学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、火災の発生及び大規模災害発生時並びに授業中の安全管理等において、適切に対応しているか	法人全体として、大地震をはじめとする大災害等に備え、教職員の対応を規定したBCP（事業継続計画）を策定しており、被災時の組織体制・拠点体制・人員体制や、被災直後の初動対応、事業再開に向けた中期的な復旧対応を規定し、運用、対応している。また、年に一度の避難訓練、年に二度の緊急通知訓練を行っているほか、3月には次年度に向け、大地震発生・Jアラート発信時（授業中）の教員対応について、教務担当教務主任会議にて確認し、各部門でも周知する機会を設けている。	特筆すべき長所、課題はない。	

参照資料	中項目の評定
早稲田大学 BCP（事業継続計画） - 早稲田大学、 <a href="#">BCP_6_external_JP.pdf</a>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 基準 6 教育活動の基盤と情報の公表

6-1 (1/1)

### 6-1 中期事業計画と財務基盤

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○当該専門学校の目的を実現するために、実効性のある具体的な中長期的計画が策定されているか</li> <li>○設置法人が策定している場合は、計画上に当該専門学校における教育等の内容が明確に位置付けられているか</li> <li>○計画の進捗状況、組織上の役割分担、計画の見直しなど計画の遂行の実効性は十分か</li> </ul>	法人全体としての中長期計画「Waseda Vision150」の枠組み内で本校としての将来構想を策定している。また、統括部門が中心となり毎年度における進捗状況の報告、次年度の計画を取りまとめ、特設サイトおよび本校の Web サイトにて公開している。	特筆すべき長所、課題はない。	
6-1-2 ②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するため 必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	○中期事業計画を実行し、当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか、不十分な場合は改善に向けた計画を策定しているか	法人全体としての直近5年度（2020年度-2024年度）の決算において、全ての年度で経常収支差額は50億円を超えており、十分な財務基盤を確立している。	特筆すべき長所、課題はない。	

参照資料	中項目の評定
早稲田大学 Waseda Vision 150、 <a href="#">学術院・両高等学院・芸術学校の将来構想</a> - 早稲田大学 Waseda Vision 150、 <a href="#">Waseda Vision 150 芸術学校の将来構想</a> 、 <a href="#">芸術学校の将来構想 2024年度進捗報告・2025年度計画</a> 、 <a href="#">決算書関連情報</a> - 早稲田大学	2

<b>最終更新日付</b>	2026年4月28日	<b>記載責任者</b>	宮本 佳明
---------------	------------	--------------	-------

## 6-2 学校運営

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	<p>○当該専門学校の全体の運営について、事務組織体制を整備し、業務分担、責任体制が明確になっているか</p> <p>○教員と職員による連携体制を確保しているか</p> <p>○校長による意思決定及び執行管理が適切に行われているか</p>	<p>学則および規則に基づき、学校運営・教育支援を担う事務体制等を整備し、適切な人員配置を行っている。</p> <p>教育支援・学生支援等において教職協働を基盤とし、教員と職員が一体となって取り組んでいる。</p> <p>校長は校務を総括し、学校を代表して意思決定および執行管理を行っている。</p>	特筆すべき長所、課題はない。	
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に付け、意欲及び資質を向上させるためにSD（Staff Development）活動などの取組が行われていること。	○学校運営を適切かつ効果的に行うため、学校の管理運営や教育活動等に関わる教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための組織的に研修の機会を設けるなどの取組を行っているか	<p>法人全体として、業務の高度化・専門化に対応するため、必要な専門知識を有する職員を育成している。</p> <p>具体的には「職員人材育成行動指針」と「SDプログラム開発方針」に基づき、「Waseda Staff College」を展開して様々な研修および自己啓発補助を行い、体系的な人材育成を推進している。</p>	特筆すべき長所、課題はない。	

参照資料	中項目の評定
早稲田大学芸術学校規則、職員人材育成について - 早稲田大学、 <a href="#">2025年度 WASEDA STAFF College ガイドブック.pdf</a>   <a href="#">Powered by Box</a>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 6-3 学校評価の実施と改善活動

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-3-1 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	○学校評価に関する規約を有し、それを基に適切に結果を管理、公開しているか	早稲田大学芸術学校学校評価委員会内規を有している。それを基に毎年度自己点検および学校関係者評価を行い、結果を管理し、Web サイトにて公開している。	令和8年度の学校教育法の改正に伴い、第三者評価が努力義務となった。今後、修学支援新制度の機関要件を満たすために第三者評価が義務となる（しばらくは学校関係者評価をもって代えることができる）ため、いずれ第三者評価の実施に移行する必要がある。	専修学校の第三者評価については大学ほど実施環境が整っておらず、本校として当面実施を見送ることとしているが、その間も他校の第三者評価の実施状況や国による実施環境の整備・支援に関する情報を収集し、実施の機を逃さないことが重要である。
6-3-2 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	○学校評価の結果を振り返る機会を持ち、改善に活用しているか	自己点検・学校関係者評価の結果を本校の意思決定機関である運営委員会および主任会にて報告することで、校長、教務主任、常勤教員、職員が振り返る機会となっている。	特筆すべき長所、課題はない。	

参照資料	中項目の評定
<a href="#">早稲田大学芸術学校学校評価委員会内規</a> 、 <a href="#">2025年度第2回運営委員会議題</a>	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------

## 6-4 社会からの理解と情報の公表

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-4-1 当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること	○当該専門学校の教育内容等が社会から理解を得られるように、積極的な取組が行われているか	<p>本校はその教育内容、学習成果、学校運営等の状況に関する情報を本校 Web サイト、学校案内、卒業設計・学生作品展、早稲田大学芸術学校紀要 AARR 等で積極的に発信している。</p> <p>他に、現役学生のコンペ入選や卒業生が設計した建築物の掲載された業界誌の情報等についても情報が寄せられた際は Web サイトにて迅速に発信している。</p> <p>また、建築業界あるいは周辺業界で活躍する卒業生に関するコラム記事を独自で作成し、Web サイトに掲載している。</p>	特筆すべき長所、課題はない。	

参照資料	中項目の評定
早稲田大学 芸術学校、 <a href="#">学校案内 2026-27</a> 、早稲田大学芸術学校紀要 AARR、 <a href="#">【開催報告】卒業設計・学生作品展 Project Review 2025</a> - 早稲田大学 芸術学校	2

最終更新日付	2026年4月28日	記載責任者	宮本 佳明
--------	------------	-------	-------